



Voice ジュビリー 50

「6月1日はホームカミングデー」 という合言葉 知識と技術と多くの感謝を 社会に還元

今年度から発足した日本歯科大学校友会ジュビリー 5025事業の第1回として、卒業以来50年が経過した54回生と、25年の79回生が6月1日の日本歯科大学創立記念式典に特別参列いたしました。ジュビリー事業の一連の流れについては別掲の記事がありますので、本稿では54回生クラス会がどのように準備して参加に至ったかを御紹介したいと思います。この稿が来年の日本歯科大学創立110周年記念式典に特別参列される55回生と80回生の皆様のご準備の参考になれば幸いです。

昨年10月に東京で開かれた54回卒クラス会の席上で簡単なお知らせはありましたが、実際には今年3月校友会本部からジュビリー 5025事業への招待状をいただきました。内容は、母校での創立記念日の記念式典とその後の懇親会への出席のお誘いでしたが、クラス会のなかからこの機会に母校に記念品を贈呈しようという声其自然に湧き上がりました。

とはいえ、仲間の大部分は「ジュビリー」という言葉そのものに馴染みがありませんので、「6月1日はホームカミングデー」という合言葉でクラス会からの案内状を出すことにしました。ホームカミングデーとは、米国のカレッジなどで行われている卒業生がキャンパスに集まる行事を指します。幸いなことに、卒業以来2年毎にクラス会を開いてきましたので、名簿はしっかりと整備されていました。初代のクラス会幹事上喜久男君、現在の代表幹事小林菊生君、さらに校友会長の近藤勝洪君も加わり、会計として初道守久君、庶務として私が「ホームカミングデー呼び掛け人会世話役」となって立ち



上げた25名の有志による「呼び掛け人会」が、「ジュビリー 5025行事への参加と母校への記念品代の拠出」をクラス会の全員にお願いしました。

その結果、平成27年6月1日(月)午前9時半、北は北海道、南は鹿児島県から46名のクラスメートが1階ロビーに集合し、図書館スタッフのご厚意による図書館見学ツアーに参加した後、富士見ホールでの創立109周年記念式典に参列して校歌を斉唱しました。午後1時からのホテルグランドパレスでの懇親会では、富士箱根の災害に配慮してクラス会開催を中止した年の世話人代表難波正明君から中原泉 理事長に、母校への感謝の気持ちを込めて79名のクラスメートからの拠出金154万円を記念品としてお渡ししました。

顧みれば、卒後50年の前半の25年間は、社会の中で多くの先輩、同僚、コ・スタッフ、そしてなによりも患者さんから、実践的な教養を無我夢中で学びました。後半の25年間は、それらの学びを臨床に活かして人々の健康の維持増進のために社会に貢献してきた時期だったと思います。

いま、卒後50年を越えたわれわれには、これまで習得した知識と技術と多くの感謝を社会に還元していく役割があるのではないだろうかと話合っています。そんな折のジュビリー 5025への参加は、日本歯科大学当局並びに校友会の温かいご配慮が私たちの活動の支えだったと感じさせてくれた一日でした。

日本歯科大学ならびに校友会のますますのご発展と、校友各位のご健勝を祈念しております。

(西田紘一・54回記)